

風のように



甘木教会

牧師：白川道生

委嘱者：竹田孝一

占星術の学者たちが東の方からエルサレムに来て、

マタイ2：1

【説教要旨】

1月6日は、教会暦では、顕現日にあたります。もうひとつの古いクリスマスなのです。アルメニア教会では、今でもエルサレム降誕教会で、旧暦の1月6日をキリストの誕生日、クリスマスとして祝っています。西方教会の流れをくむ私たちの教会は、東方の三博士のイエスの訪問が中心となり、異邦人である三博士にもイエスさまの誕生が知らされたように、全世界に救いが示されたということで、エピファニア（顕現）と言います。

占星術家は、古代は科学者です。彼らも膨大な天文学の資料のもとで星を見て、未来をさだめていきます。まさにその当時は知恵に満ち、その知恵によって生きていました。しかし、不思議なことですが、ヘロデ王に会った以降の彼らの行動です。これほどに知恵に満ちながら知恵によって星の運行、これから起きようとしていることを測っていたのですが、王に会った後、「東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。」とありますように、聖書は星の導くままにその歩みを進めるのです。

今、彼らを超えた力を前にして、彼らの知恵でなく、「東方で見た星が先立って進み、」とあるように星の導きのままに歩みます。イエスの誕生の前に、本当の命の誕生

を前にして、博士(占星術家)らは謙虚に振舞い、自分を小さくしていくのです。ここに私たちの生き方が示されているように思えます。「低くされた私たちを御心に留められた方に感謝せよ。」(詩篇136:23)と聖書は讚美します。

私たちはここ十数年のコンピューターの普及、AIの発展により多くの知識、大きな知識を得て技術発展を加速しました。人に幸福をもたらすための手段として私たちは使っています。幼稚園でフィリピンの保護者に手紙、案内状を出すとき、日本語をタガログ語、英語に、あるいはインドネシアの青年に週報の報告の部分をインドネシア語に翻訳することがAIを使って比較的正確になりました。それは技術を手に入れた人を測り知れないエネルギーをもって、万能感を与え、神格化していつています。

私たちが、こんな大きな力を得たからと言って幸せになったかというところでもありません。むしろ、世界は大きな課題をもって生み苦しんでいます。

この発展がいかに危険なものであるかということを知りながら、私たちは何も出来ずにいます。AIの発達には、AIは人類を赤子のようにねじ伏せ、30年後はAIによって人類は滅びると警告をする学者もいます。

人類に幸せをもたらすとおもっていた技術の発展が、人類を滅ぼすところまでに来たこの皮肉なことは、いったいなんなののでしょうか。今、世界は危機を感じ、特にAIに規制をかけようとしています。しかし、アダムが蛇にそそのかされて、知恵の実を食べたように知恵の実を食べてしまうのでしょうか。では、私たちは、どうすればこの危機から逃れられるのでしょうか。博士(占星術家)らに示したように自分の知識に頼らず神の導きに委ねた謙虚となるということです。今の時代だからこそ私たちは謙虚でなければなりません。

イエスさまの誕生に、この三人の博士(星占術家)が自

分の知恵を「神のまさになさらんとする」という出来事の前に、彼らは自分がもっている知識を使わず「東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。」という違う力に導かれていく謙虚さです。ここに、「幼子のいる場所」、救いがエピファニアなのです。

どこまでも自分の力に何かをしようとする傲慢さに留まっている時、私たちの罪は現れてくるのです。ヘロデは言います。「行って、その子のことを詳しく調べ、見つかったら知らせてくれ。わたしも行って拝もう」、まったくの嘘です。彼は権力を失うことを恐れて、不安にさいなまれ、「さて、ヘロデは占星術の学者たちにだまされたと知って、大いに怒った。そして、人を送り、学者たちに確かめておいた時期に基づいて、ベツレヘムとその周辺一帯にいた二歳以下の男の子を、一人残らず殺させた。」という悲惨な歴史を作ったのです。それは、今、起ころうとしているのです。私たちが「神のまさになさらんとする」ということに、謙虚であって、私たちも知恵の限り、私たちは私たちの知恵を使うべきですが、「神のまさになさらんとする」という救いに与るのです。三人の博士（占星術家）が、「東方で見た星が先立って進み、」とあるような神に導かれるとき真実の救いに出会うと神さまは、私たちに約束されました。これが、現代に神が示されているエピファニア、もう一つのクリスマスのメッセージです。

「旅がどんなかたちになるにしろ、占い師たちを導いた星と同じような光が、必ず与えられると思います。そのためには、忍耐深くしかも真剣に祈る心が前提とされます。この祈りの中に忍耐深くとどまり、探しつづけることによって、必ず本当の光であるイエズスに出会う恵みが与えられるはずです。」（「神のやさしの中で」森一弘著 女子パウロ会）

「東方で見た星が先立って進み、ついに幼子のいる場所の上に止まった。」

牧師室の小窓からのぞいてみると



小窓から見ると2025年は大変な時代に突入すると世界がしか見えてきません。アメリカの変化は、私たちの生活に影響を与えて、厳しい生活が待ち受けているかもしれません。世界恐慌と戦争を予測する経済学者もいます。そうあつては欲しくありませんが。人は神のなされるわざを初めから終わりまで見きわめることはできないとコヘルトは言います。

だから、どのような時代でもあつても、時は神が作り、はなはだ良かったという事実があるといことを信じ、希望をもって将来を見ることを怠ってはいけないと思います。



園長・瞑想？迷走記

特に冬休みは、次年度に向けての準備をする。教育・保育の内容、人事、大きな改修を必要とするときは、春休みに出来るように段取りをしていく。しかし、園長の責任を徐々に、現場の副園長、園長補佐、主任、副主任が担って、バトンタッチをしていこうとしている昨年と違って、真逆で小さな園で先頭に立って、旗を振り、実行していかなければならなかった。寄る歳波には勝てないという事だろうか。冬の長期休みを今年ほど待っていたことはなかった。心も体もぼろぼろで。体は座ると右足がしびれている。あまたの動きが鈍く、固有名詞が出てこない(笑)

しかし、寄る歳波に合った出来ることはしなくてはと思い、将来の保育を考えつつ一部屋、一部屋を見て、改善していくところを調べている。その計画を作ろうと思っている。この歳で何が楽しいかということを見つけていこうと思う。

次に、休みの間は、園のことを忘れることも次へのステップではないかと思う。

日毎の糧

あなたの国境に平和を置き／あなたを最良の麦に飽かせて
くださる。 詩篇147：14



「ルターの言葉から」

キリストを守るためには、全世界に対してすら、一人の天使
で十分であったでしょう。しかしキリストは言われます。
「剣をもとに納めなさい。…」わたしが苦しまなければ聖書
は成就しないとっておられるようです。」

(『マルティン・ルター日々のみことば』鍋谷堯爾編訳 いのちのことば社)

平和への苦しみ

「神への賛美」を呼びかける。2部(7節～11節)の
「神が喜ばれるのは軍事力でなく、目にみえない神を畏れ、
神の慈愛に望みを託す人たちである。そう詠うこの両節は、
直接的には、詩篇33編16-18節から採られている。も
っとも、軍備や強国に頼ることをせず、神のみを畏れ、神の
みに信頼せよとは預言者の主張であり(ホセア7：11、イ
ザヤ31：1-3)、ヤハウエによる救いは軍備によらない、
という思想は旧約聖書全体を貫く(サムエル上17：47、
ホセア1：7、詩篇44：7他)。」①を受けて、3部の
「あなたの国境に平和を置き／あなたを最良の麦に飽かせてく
くださる。」につながり、「それが『剣を取る者は剣で滅びる』
(マタイ26：52)というイエスの言葉に結晶する。」②

(①②詩編の思想と信仰VI 月本照男 新教出版)

しかし、現代の神に選ばれたイスラエルの民はどうして
2024年の年末までガザの病院を攻撃し軍事力による制圧を続
けるのだろうか。聖書に過ちがあるのか。私たちは厳しく問
われている2025年を迎える。「『剣を取る者は剣で滅びる』」
というイエスさまのお言葉に耳を傾けて、苦しみつつ平和作
りをする神の子とされていきたい。

祈り：主よ、「『剣を取る者は剣で滅びる』」というイエス
さまのお言葉に生きる者としてください。

甘木通信

2025年が開かれました。過去と比較して時代は激変していることを実感出来る年齢にいます。できれば、自分の価値観の中でゆっくりと穏やかに過ごしたかったのですが、そうはいきません。



佐藤優氏が、「還暦からの人生戦略」（青春出版）の中で、環境の激変を受け入れる力を持つこと、「『リセット』という言葉がふさわしい。それまでのものを一度リセットして、新たな気持ちと視点で人生を再スタートするのです。・・・その価値観と人生の転換リセットの時期・・・」とっています。価値観と人生の転換リセットこそ環境の激変を受け入れる力を持つことでしょう。今、引退して甘木教会、日善幼稚園に遣わされて2025年もその価値観と人生の転換リセットし、新たな宣教、教育・保育をしたいと思っている。

確かに激変する社会は私たちを戸惑わせていくでしょう。「無秩序で廃墟（トーフー・ワボーフー）となった世界が、人間にとって幸せであるはずがありません。神はキリストを遣わして、この世界に愛を吹き込んで、この世界を秩序と調和に満ちた輝く世界にしようとしたのです。」（「人生を支え、老いを照らす光」森一弘著 女子パウロ会）

顕現日（エピファニア）のときもう一度、神の愛の吹き込みを感じる幸せな一歩を踏み出しましょう。

(甘木日記)土) メールをチェックし、久留米の幼稚園の掃除に行く。自分の机の引き出しも整頓。午後から一休み、博多・天神に夫婦で出かける。**日)** 礼拝後、花壇の用意。苗だけでも300株。どうしたものか(笑)隣接地4件にお礼の挨拶回り。**月)** 1ヶ月分の週報原稿を作る。花壇設計を蓮華と菜の花に変えるのも一案か。**火)** 除夜礼拝、白川主管牧師も来てくださる。甘木一泊**水)** 新年礼拝。**木)** 正月休みで北九州へ父母の墓参りに行く。**金)** せっかくの休みだからどこかに行こうと言っていたが家にくすぶる。信仰の朋の父親が正月に急死。すべてに時ありと祈る。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) 最終主日を前にして準備。幼稚園が休みだという気楽さが余裕をくれている。午前中はメールをチェックし、久留米日善幼稚園の掃除に行く。自分の机の引き出しも整頓。よくもためたものだと呟く。長男の所に正月は来るか電話をすると猫の肝臓の調子が悪いから行けないという。寂しいが。午後、一休みして、博多・天神に夫婦で出かける。私はお世話になった飲み屋さんにお礼の挨拶をして帰宅。足が痛くて空いている電車の席に座るが隣の若者には接しすぎで迷惑だったのか席を立たれる。日) 2024年・最後の礼拝。早朝に甘木へ。祭りの後礼拝は、体調を崩された方がおられ礼拝は少なかったが、zoom礼拝が増えた。礼拝後、ご近所の3件とお寺に私の好きな小城・八頭司伝吉の羊羹を持って一年のお礼の挨拶回りに行く。300株のパンジーが必要な花壇の設計。(笑)これで今年は終わり。ここまでよく来られたと溜息。妻に感謝しつつ、最後まで些細なことで喧嘩している。月) 朝、ゆっくりと起きて、メールを確かめ、除夜、新年礼拝の案内メールを送る。1ヶ月分の週報原稿を作り、家内と正月用品を購入に行くが、物価高騰に驚く。これでは生活困窮者は大変だろうと心が痛む。300株のパンジーが必要な花壇の設計をしたが、蓮華、菜の花の種を蒔くには少し遅いが長男にインターネットで購入してもらおう。息子からすぐに送られてきたメールにある専用バーコードで一瞬に支払いが出来たことに驚く。火) グーグル翻訳が週報を一瞬でインド

ネシア語にしてくれる。日善幼稚園の園庭を掃いて除夜礼拝に甘木、白川主管牧師も佐賀から来てくださり贅沢な礼拝?皆で年越しそばを食べる。泊り。水) 新年礼拝後、(年越しそば) ぜんざいを一緒に食べる。家内のぜんざいは絶品。今日からDIE LOSUNGENをドイツ語、英語で読むことにした。どこまで続くか。



(門司・小倉)



木) 夫婦で父母の墓参りに北九州に行く。帰りに昔、歩んだ街を散策。ふと、家内が歩んだを街を歩んでいないことに気づく。とっくに無くなっていると思っていたデパート井筒屋があり、そこで、罪滅ぼしに気に入った靴を買いなさいと一言。20歳を迎えるインドネシアの青年にVANがマフラーも購入。金) 信仰の朋の父が急死。明日の葬儀には関西にいた長男に出席してもらおう依頼をする。



